参道狛犬研究会ニュース

1998年6月22日

第8号

編集　阿由葉郁夫
　　山崎　衛

発行　日本参道狛犬研究会

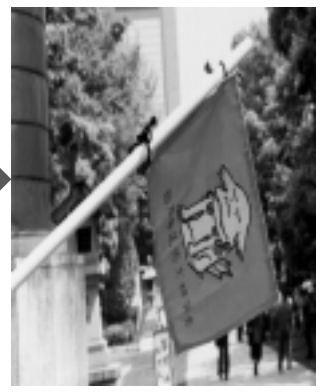
浦和市高砂2-4-6
市民文化センター
TEL 048(822)2548
FAX 048(822)6472

第五回 フィールドワーク リポート

4月29日。晴天の下、一〇四人の参加者を得て、深川の富岡八幡宮を中心に行われた。その一日レポートする。

集合は富岡八幡宮大鳥居前。さっそく記念撮影。ここには6対＋αの狛犬がいる。まずはその＋αから。これは名物の大神輿に据えられた木彫りの狛犬(目には3カラットのダイヤ!)。次に石段脇の大型江戸尾立。享保、安永、嘉永と再興・改修の歴史が台座に刻まれ、いつが建立年かは必ずしもハッキリしないがなかなか素晴らしい。この神社は横綱力士碑など相撲関係その他の石像物がたくさんあり、それらを見つつ末社の永昌稲荷へ。元治元年の獅子山、苔生した宝暦の江戸尾立、それと昭和。江戸で一番古い御影の灯籠もある。最後はもう一つの末社大鳥神社。安政の江戸尾立、大正10年石工木旭晨によるかなり出来の良い江戸狛犬。

そして隣の深川公園へ。なぜ公園?ここには円丈師匠狛犬巡礼発起の狛像(円丈本の序章で語られている)があるのだ。次に訪れたのは深川不動。しん平師匠のハンドマイクからの冗談と共に長い列は続く…心行寺そして法乗院へと。法乗院えんま堂では地獄絵の特別拝観、住職の講話付。



そしてやっと遅い昼食。東天紅にて豪華中華料理!食後は恒例の「おもしろ狛犬講座」。第一部はしん平・小田原丈の「あなたの創作ノート」発表大会。一等賞は圧倒的支持を得て柿沼幸さんの「今日の唄」(作詞・作曲・歌唱!)に決定。特別賞は最年少参加者、小宮聡君(14才)の作品。第二部は円丈師匠の狛犬クイズで盛り上がった。最後は今日一日を見事にまとめてくれた小宮君の作品で。「狛犬を見に来てみれば　最初だけ　あとは話しと　歩いておわり」

追記　第六回は5月31日72名が参加(70%が初参加)、深川不動・心行寺をカットし繁昌稲荷神社・冬木弁天堂を追加。こっちの方が良かった!【事務局より】フィールドワークの感想をハガキで事務局宛にお送り下さい。

犬が呼んだ

久保田和幸

「おーい」声なき声が私を呼んだ。車をゆっくりと走らせながらフト横を見た。「いたぁ!」車をバックさせ外に出る。狛犬がこっちに向かって語りかけてくる。こんな出会いって嬉しくなりませんか。

狛犬行脚の途中、地図にもなく全く予期しない所での出会いです。今回は、埼玉県幸手市の町はずれ西関宿、蓮華院境内の保食神社でした。まして、声の主が江戸犬であったためシャッターを押すのも二倍三倍となりました。全体の風貌、眼の形、台座の薄さが古さを象徴しています。嬉しくなり独り言になるとは知りながらも語り掛けています。誰が見てもヘンなヤツに見えるでしょうネ。

残念ながら、この犬には身元証明となる文字は一切ありませんでした。でも、いつか又こんな出会いをしたいと思いながら、ヘンなヤツはヘンなヤツなりにヘンな夢を追いかけて狛犬行脚を続けます。たまには奇特な人に「高尚な趣味をお持ちで結構ですネ」なんて言われて思わず「エヘッ」

『狛研ホームページについて』

三遊亭円丈

最近、狛犬のHP(ホームページ)が増えてます。私の円丈のHPや、たくき氏のHP。またそれに触発される形で更に数人ほどが狛犬ページを持っている。しかし我々狛研にはHPがない。いやそれどころか事務局にはパソコンが二台もあるのに今だにインターネットにすら繋がってない。淋しい!だからメールも出せない。悲しい!

私は、ぜひHPを持ちたい。そこで友人のNECの太田さんに頼んでパソコン教室を開催!!

(1)興味はあるけど感電しそうでコワイ!

(2)買ったけど‥なにがなんだかわからん!

(3)ワープロは、持ってるけど‥パソコン怖い!

(4)少し使えるけど‥その先がゼンゼンわからん!

(5)かなり使えるけど‥でも分からん!!

そんな人に集まってもらって講習会を開こうと言うもの。会費は千円か、1500円あたりを考えてます。ぜひ一人でも会員に使えるようになってもらい。太田氏はぜひ教えたいとと張り切っている。お互いのデータ交換や、HPの手伝いをしてもらい。私はラクしたい!!

狛犬紀行⑤〜江戸吉原・松葉屋ゆかりの狛犬

三宅稜威夫

江の島は江戸時代から観光地として知られる。私にとっては幼き頃の修学旅行の思い出がつまっている所である。久し振りに訪ねた。島をゆっくり巡るとここは石造物の宝庫であることに気づく。頼朝寄進の鳥居(養和2年)があったり江戸狛犬が6対あったりする。島の頂に江の島神社奥津宮がある。この参道に「宝暦12年　松葉屋平三郎寄進　石工高井籐四郎」銘の狛犬がある。彫りが深く前足ががっしりしている。松葉屋といえば江戸吉原の大店…白髭神社(向島)の狛犬も松葉屋寄進であるが、何故江の島にと疑問を持った。落語の「大山詣り」を調べていたらこの謎がなんとなく解けた。大山(丹沢)を詣りそのあと江の島に足をのばし生きた弁天様で精進おとしをしたようだ。江戸の人は…。今は土産物屋が軒を競っているが、かつては白粉をつけた弁天様たちが嬌声をあげたらしい。聖性セットの旅を「二所詣で」と称した。

狛犬と仲よくすると正史にない歴史がみえてくる。

興味神使録

第二回　狛牛の巻

世に撫で牛は数あれど、対の狛牛となると意外に少ない。尚、牛虎で対のものや、牛乗り天神や牛頭親王も割愛した。

先ずは文京区春日町牛天神(写真左上)。頼朝の夢に菅公が牛に乗って現れたという伝説を持つ。角が欠けているのが惜しい。

その道真は生まれも暦では丑と縁深く、荒牛を鎮めた話もあって、牛を天神の神使としているとか。京都北野天満宮(写真右上)にもリアルなブロンズ狛牛を拝める。しかも子連れ。

奈良市高畑町の天神社(写真右下)の狛牛は、明治三十五年とは思えぬほどの前衛的デザイン。胸から喉にかけてのラインが実に面白い。

最後に埼玉県東松山市松山の菅原神社(写真左下)。かろうじて牛と判る素朴な狛牛。右は鼻息荒く、左はそっぽを向いているのも可笑しい。

(木原さん、久保田さん感謝)次回は狛虎之巻、乞う御期待。十二支順に狛虎・狛兎と目下情報募集中。例会の時か、この住所〈新宿区西早稲田二ー四ー八ー三〇二〉までご連絡を!(田中邦博)

乱筆狛犬探偵団

フィールドワークが大盛況。そのせいだけではないのだろうが、長かった。三月から六月までがこんなに長いとは…狛研定例会。1ヶ月延びただけなのに寂しかった。狛犬中毒も更に重症になってしまったようだ。▼近所の神社を廻り尽くしてしまい、だんだん遠くの神社へと範囲が広がるのに従い、気軽にちょっと出掛けると云う訳には行かなくなって来てしまった。2年で約四百社。神社数、狛犬数と数だけを追い求め過ぎていたような気がする▼個々の違い、細部ばかりに目が行って全体が見えていなかったと反省している▼大局的に見るために過去の全データの見直しを始めた。そして、近場の神社へ気軽に再訪する事を始めた▼全て解っているはずのデータ内の事なのに、新たな発見と再認識の連続で…今まで何を見ていたのか…何だか新しい狛犬の世界が見えてきたような気さえする▼「狛犬の杜」は年中無休で投稿歓迎!心からお待ちしております。▼例会について、「ゲストにこんな人を招き、こんな話を聞きたい!」等のご意見を事務局までお知らせ下さい。(阿)